



瓜生氏

日本國畫

南海道

七

柳田文庫
 文庫11
 A1846
 7



文庫11

A1846

7

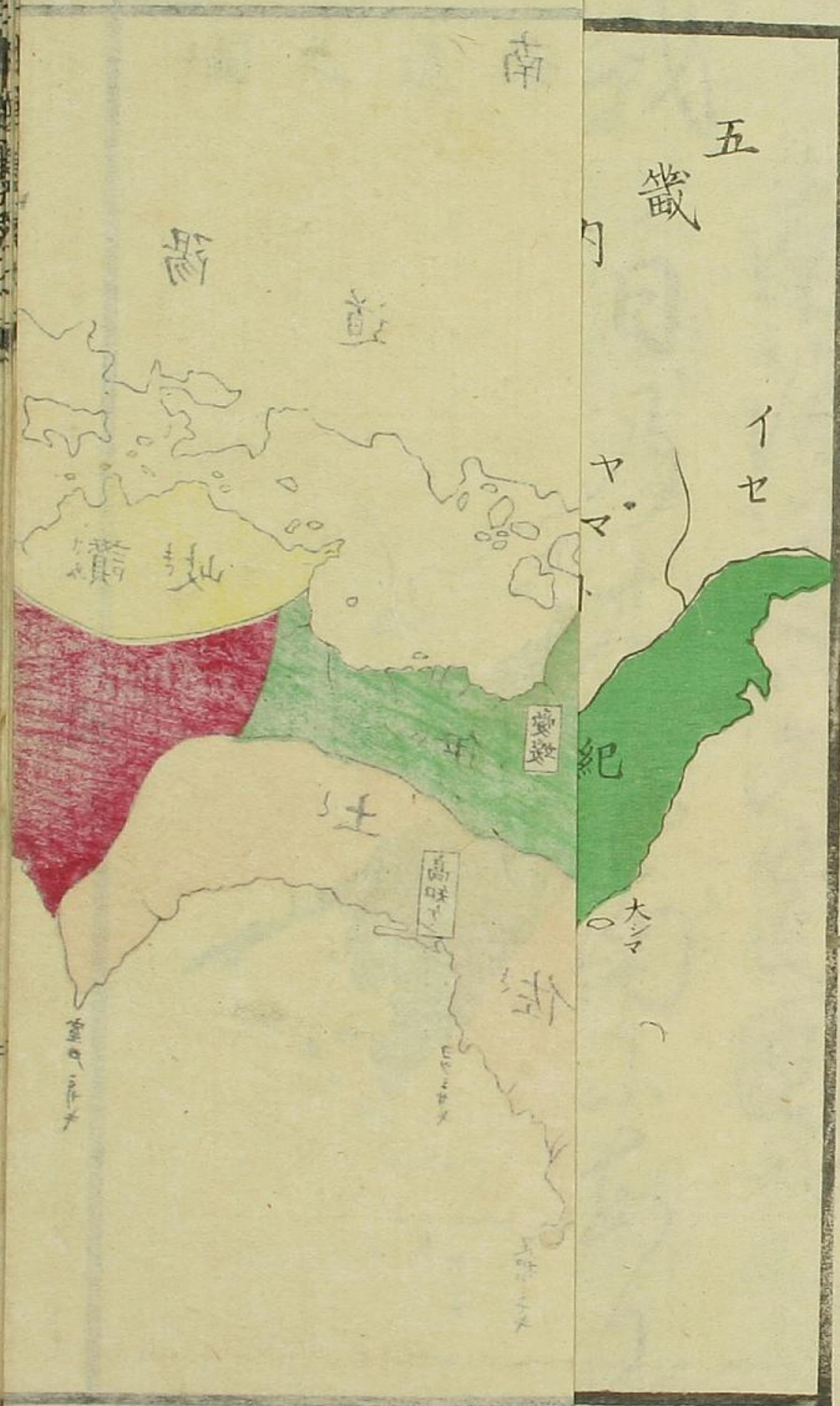
瓜生氏

日本國畫

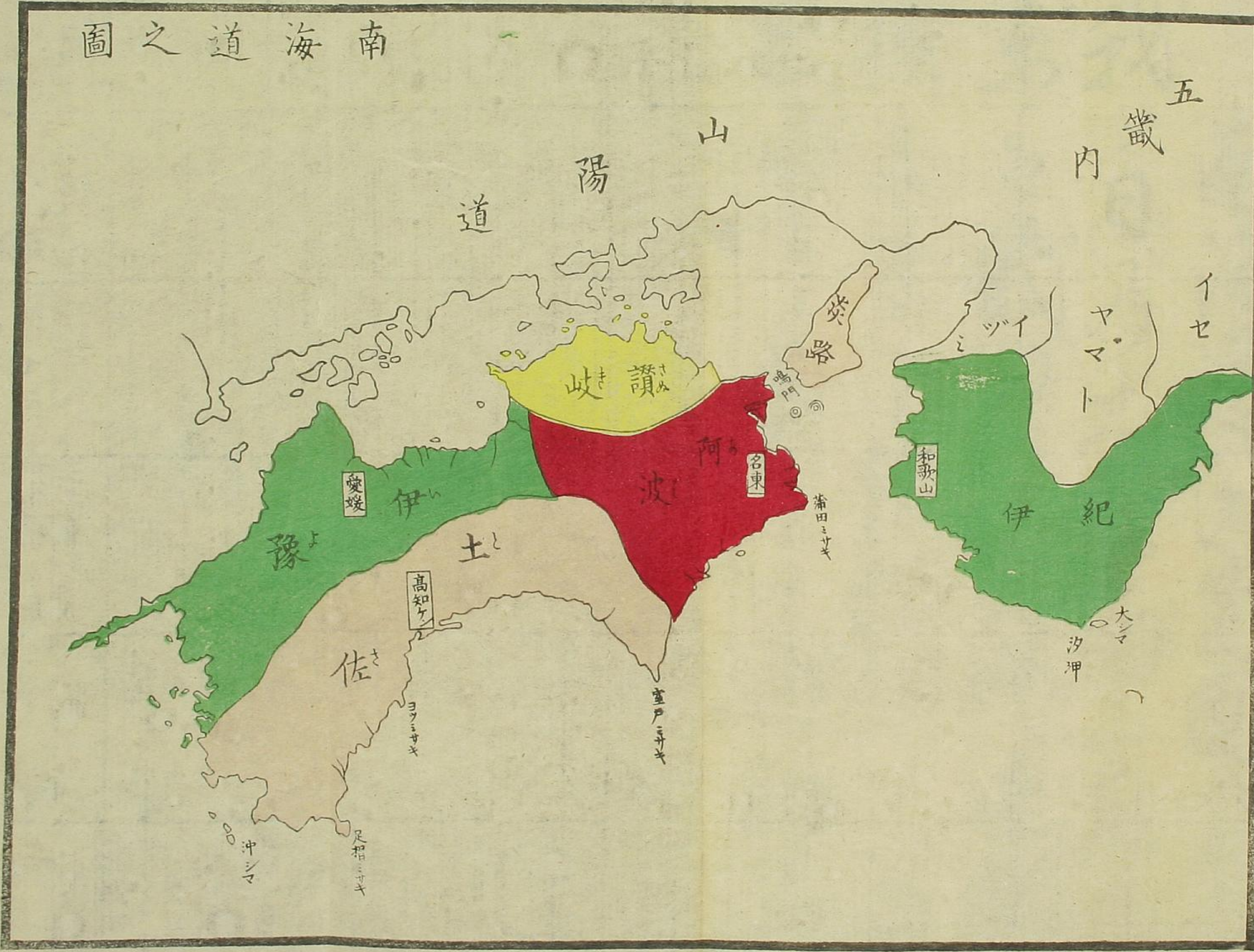
卷七
卷八



48 9663



圖之道海南



卷卷
八七





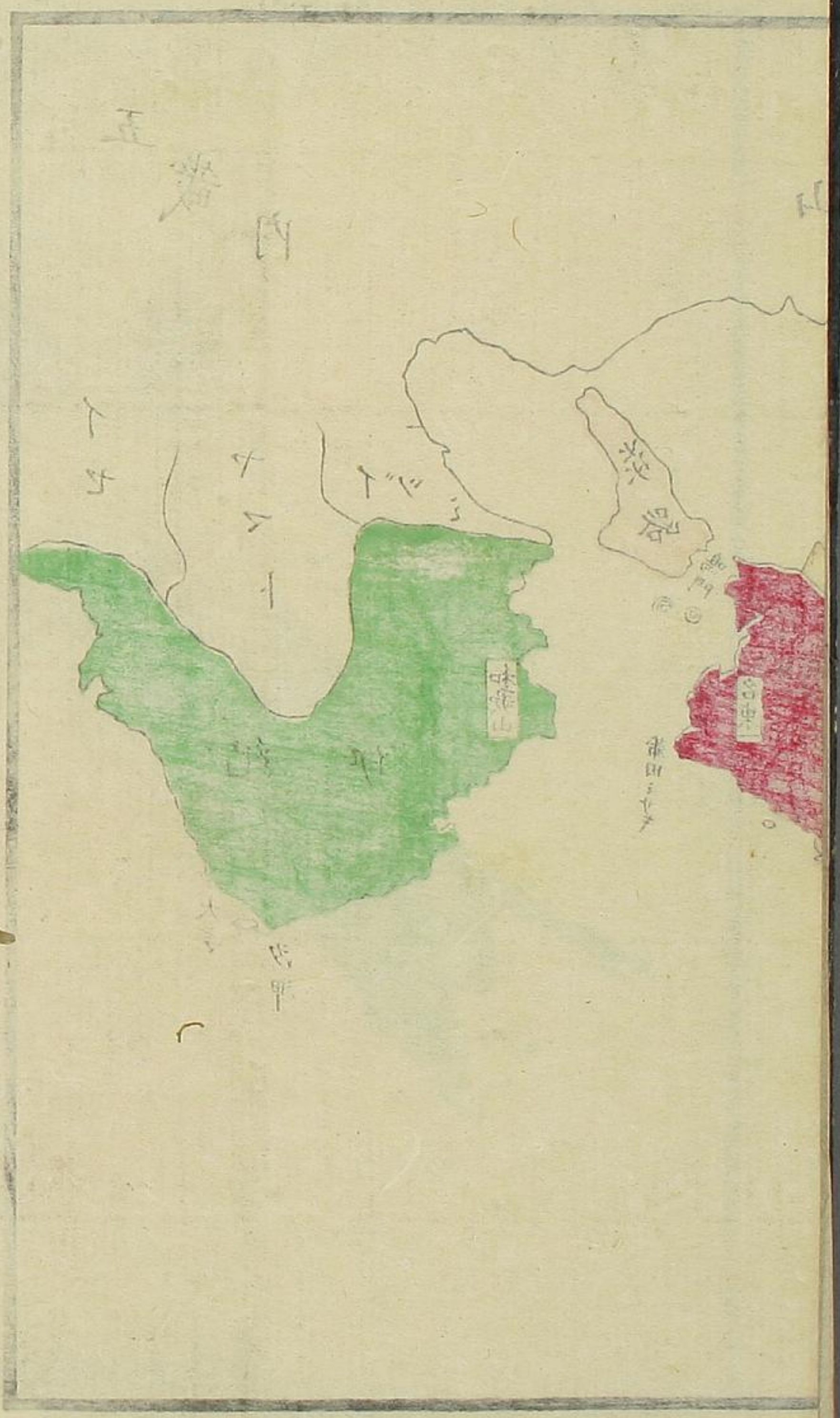
瓜生氏日本國書總目録七

南海道の六箇國



我が日乃本は南ふあり
東を畿内と東海道地
續きあるは紀伊と云
畿内より對して内海ふ

日本國書總目録七



日本國志卷之十一
立ちたる島を淡路能
國其餘は國の四處とて
東を紀伊より北山陽西
を西海九州と海を隔て
る島の必周廻四百五十
餘里南を總の平海

全道より断續して東
西より引き直り材木魚塩
乃利おほし其物つを
紀伊より折磐形の大
國より南を南海小突
出し如く大和を引きこ

包み西小河内和泉とて
 北は東北の二頭を伊勢
 の國地小地を接する由
 都て山おほく河泉の界
 り末實峠大窪峠根
 来山其南より紀乃川

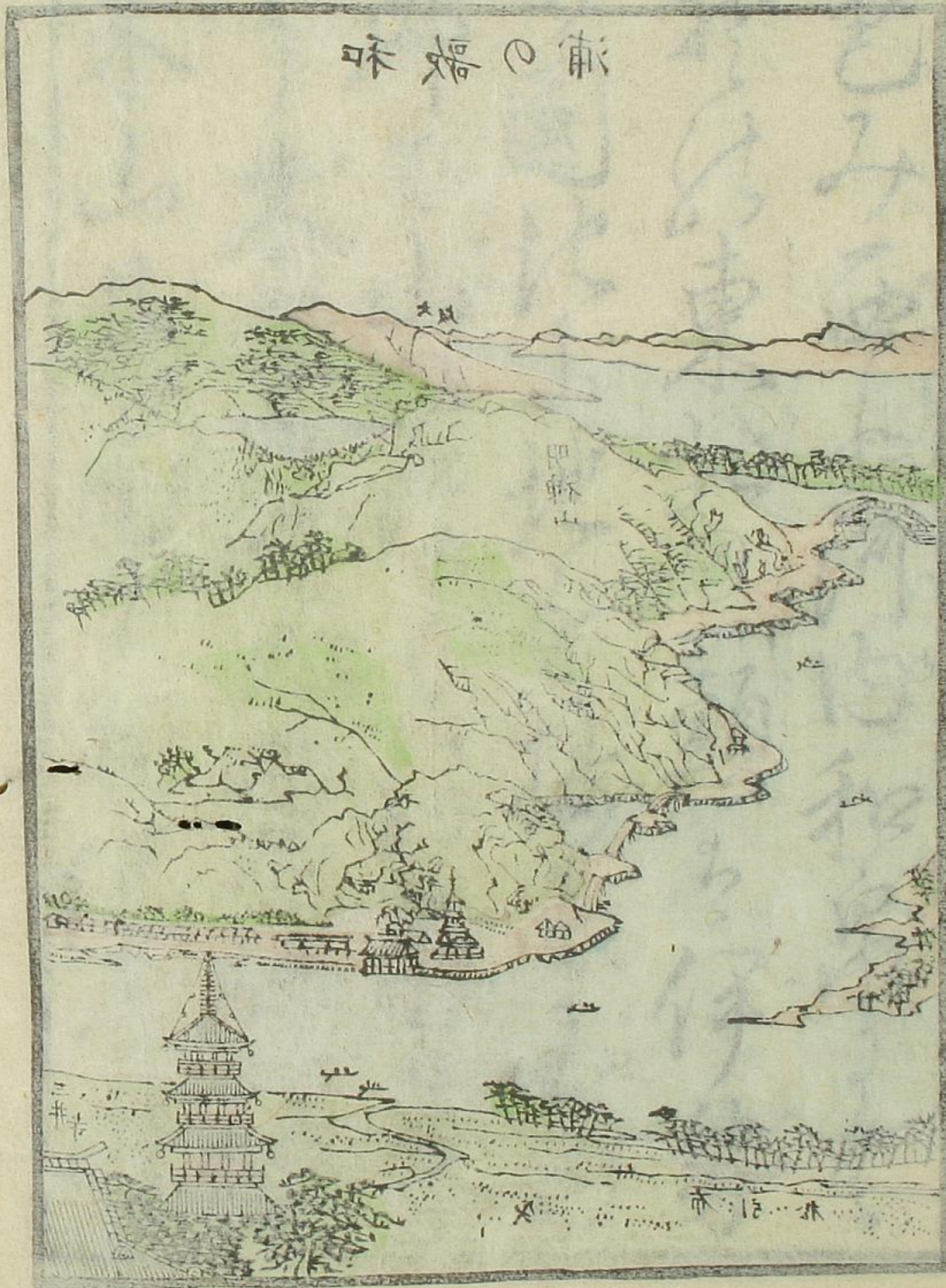


阿比吉野川の下流をり。
 大津峠や高野山。梨木
 峠を抜れば南海邊の方
 を和歌の浦汐もちり。和
 片雄波芦つをささし。了
 瀬をみく。浦邊の城市の

阿比吉野川

三

阿比の味



和歌山と和歌山縣廳乃
所在より當より一國七郡
併勢り隣まする年婁
郡の一部を除き其の殘
りや余の六郡を管轄
す。また南より藤代嶮

有田川や方圓嶮雲雀
山より湯淺河鹿脊山や
由良の戸越渡りては
早島川坂を越し海邊
小田邊より市街を
あす。富田安宅の二ツ川

を過きて東南沙見嶼
是まきまふ乃南海一尖
子て出る極端
東ふ近く大島あり沙
の岬と大島の檜野の崎
よそ燈臺如光もるふ

照渡りて能より地勢北
を括き岬の正お那智
山の山ふまおはる瀧
瀬乃心の塵を砂らし
と名ん車轉まて括の長
さ幾千尺う知事ぬやえ

海より遙くの見よきこそ
素練を懸りたるこそ
とあり大和の國め極
南より流きて來る音
無の川の流ちよむ河
口乃南の城市と新宮

みて是より伊勢の界
まは連山層岳敷おほ
き於此一帶を總稱し
然即ちとて於ち申さる
きかく深山えおほき
と都てる海邊を廻

南方一併濱松回く
港も多き故ふより九十
九浦の稱あるをよるそ
風も暖かほく民の風
俗柔和あり全國七郡
人口三十七万七千餘

於此産物も蜜磁石
蜜柑漆器小生鯨紙也
和布より石色菜蠟塩
椎茸、葱、海
才二淡路と一孤島周
廻凡三十九里沼海山そ

取圍之中却て平地
南北長く東西
短く狭く其形
似寡て其尖を播磨
攝津小指をさし底
遙り和泉地り對

了躰を紀あ地とけつ
海門お隔つ之を加
田乃迫門とつ其鞞尖
山石屋とて播磨地
明石とお對し呼い應
ふふ計なるも夫より西

南一直線溪の向の播磨
洋。岩屋を廻る。松帆崎。
江寄の端。燈臺あり。
東南流。水。海へ流す。南
東。南流。水。海へ流す。南
東。南流。水。海へ流す。南

つが岬あり。是より
地方南へ殺。阿波
向。つが岬の口。又東へ
加田。乃。迫。門。より。内
より。由。良。港。港。の。水。は
瀬。本。あり。是。を。是。の

城市をり。いんや。あむい
古の。おの。と。ぬ。嶋の島。ふ
し。伊。弉。諾。伊。弉。冊
乃。二。尊。始。て。降。り。ほ。を
し。あ。つ。ふ。よ。る。を。て。氏。領。今
之。尚。古。ふ。る。を。を。む。し。

一國二郡人口を。一十二。あり
二子。能。支配。を。阿。波。の。名
東。縣。風。土。を。て。暖。の。ふ
其。所。産。物。を。諸。貝。類。塩
り。陶。器。小。本。綱。を。り。
第三。阿。波。を。十。郡。を。り。

日國の東の端乃國北を
濠州より西北方斜に伊
豫土佐地と接し南東
をみよ海邊土地の形を
斜角として西北に伸び
東南に縮して國境に山

おほく伊豫の界より夏
嶺あり土佐界より冬
嶺あり。鞆の港は國境港
の東より海部川也。また
北に東に日佐川土
佐より東に東流し。

こゝにありて海に
 川の東に岬あり東南
 小宮出立と韮山あり
 是れ此地の南濱
 東より西に横崎是より
 地勢稍殺あり小河数

海に八つあり北の方海
 湾の八つあり地方を徳島
 として淡路讃岐の一國と
 當に一國三ヶ所あり
 支配の名東の縣廳あり
 あり所あり北に西に

を眺まき。雲あふらぬる
眉山や。佐古山の西へ見
志やうの。流るる當地乃石
所なり。吉野の川を伊
豫公佐のよより東りて
中よ北邊を流き幾

回し。分きて合ふて徳嶋
の地ふあつて海ふ海門。
湾乃水より北泊是ま
尚ふの東北隅。流路と
狭き迫門をなす。其内
海中盤旋し大小二つの

阿波鳴門の門



落深を巻きて往來乃
船の程ちして之小觸る
る霞波の患を脱する
たしくとも也本邦一乃
大難所之を鳴門と稱
まなる風出る東より



西門島津所

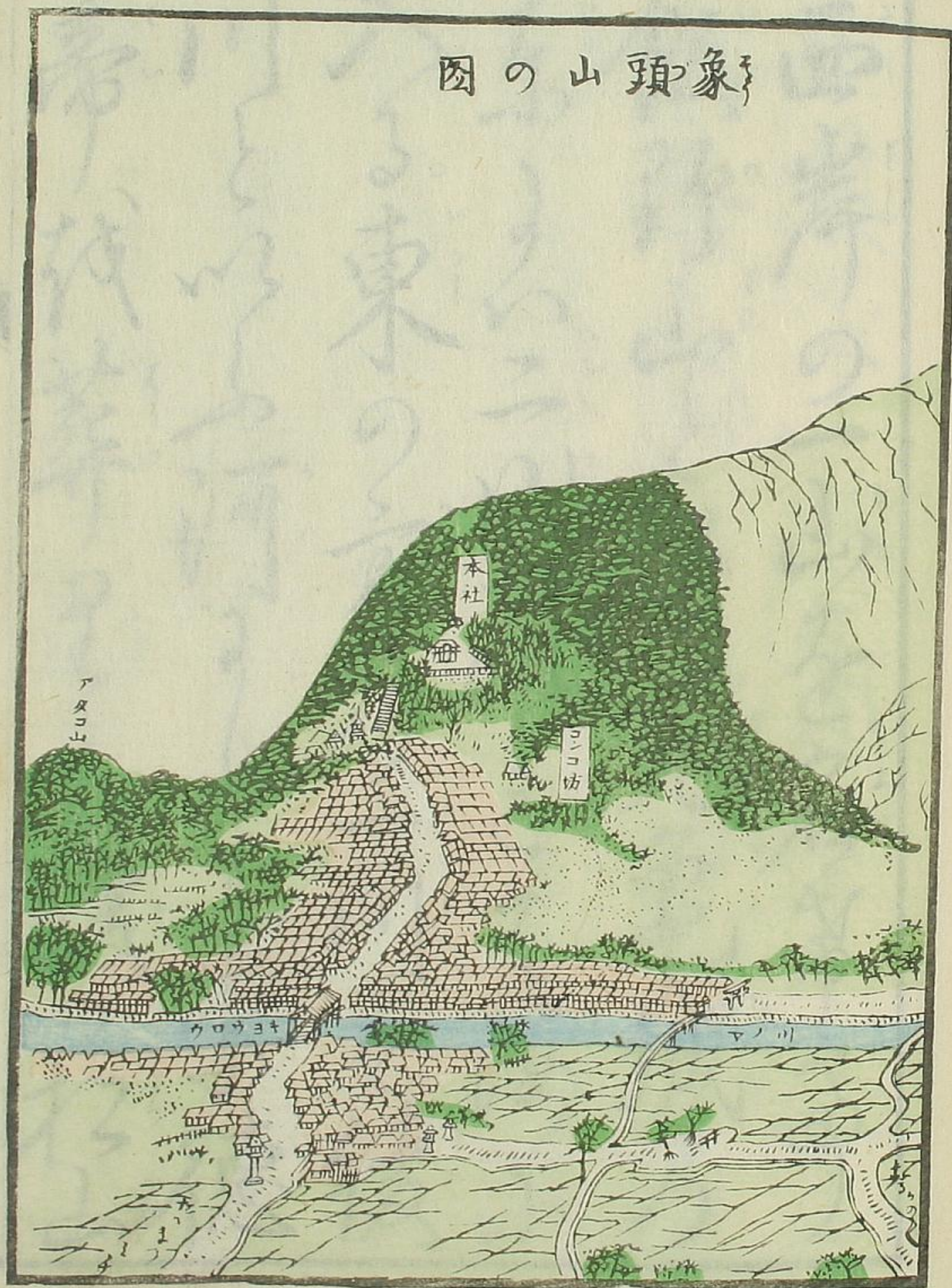
海を受事。後山越
 脊負ふゆゑ暖氣津縁
 風俗は氣健り智あ
 り。一國一國人只四
 十二万五千余。抄如産
 物は藍玉也。陶器漆麩

和布類

南海道の第四番薩摩の
南方一帯阿波の
小界して西南はつふ
伊豫小附く其他三
面弓形り張出て海
向ふ

たる海邊と岬の数を
く地形敷き荷葉の
半り以てしよく似
り國中をて十一郡
山おほく水おほく
西を
寛田本山川控れ東

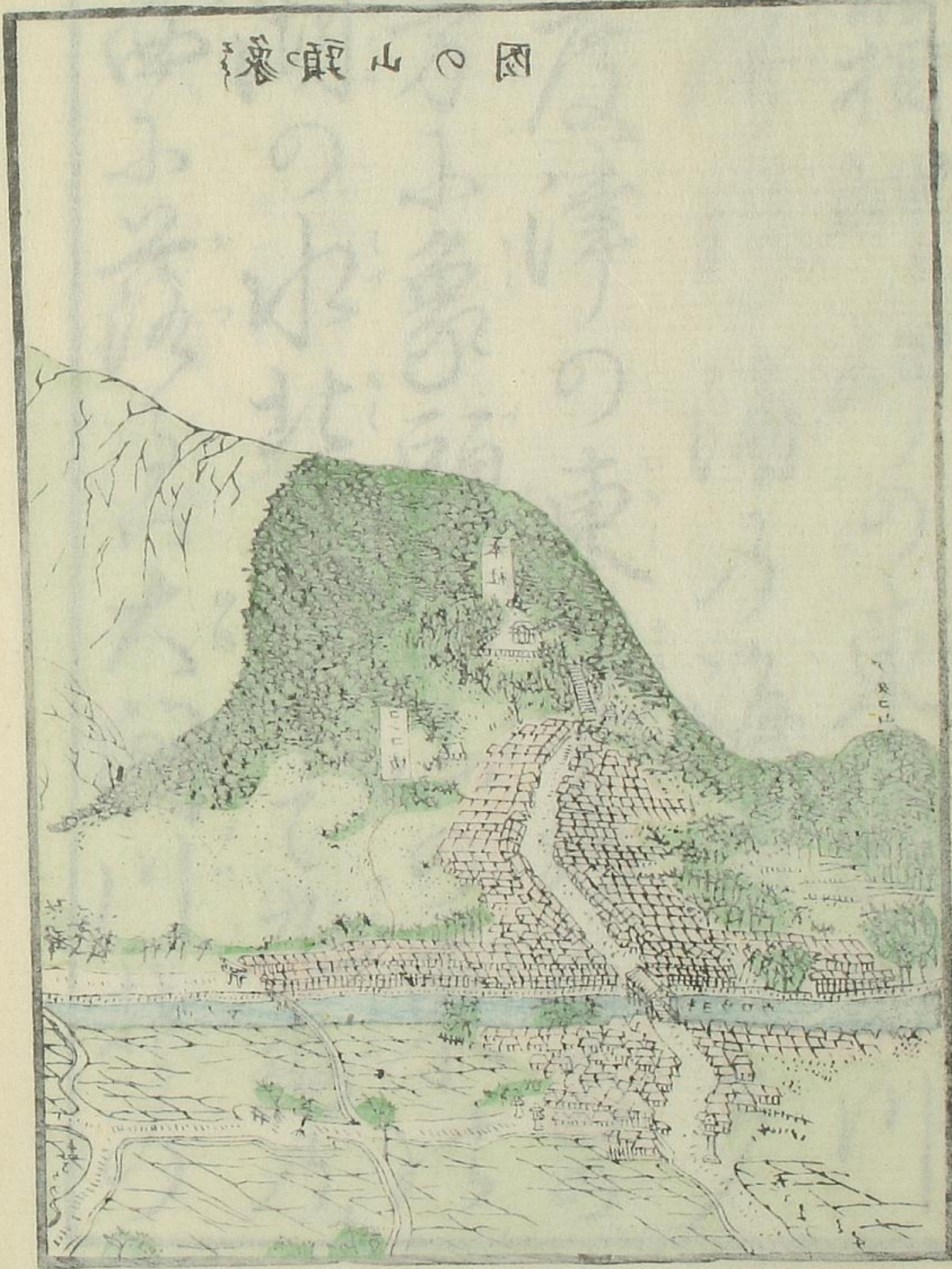
象頭山の図



箱岬岬の東新田川
 屏風が浦乃海濱の多
 度津の東丸龜乃南の
 方小象頭山山の東北
 湖の水北流して丸龜乃
 西小落るる大間川北の

江戸の歴史 巻七

國の山鹿



西岸の二山をくまもろの
 飯野山といふ丸亀城乃
 東より二川流きて海に
 入る東の方乃一川を綾
 川といふ河より出宗徳
 帝代葬りて綾の松山

日本書紀卷之二十一

於此水之河の東能乃
生崎の又東より南より
流きて落る加茂川あり
川の東の海岸を高松
の市街ふぎいけと國
の身半乃處なり夫よ

至三四乃河を経て西よ
曲して若出する岬は古
もちハ島として源義經平
軍を伐ち破るる古
戰場ハ嶋の南を五劍山
峯の形を五振の劍を植

しこくをなす。山脈東
小連の山。栗山の麓。小
志度の港也。志度乃
浦。浦小。落込む。長尾川
是より。地勢漸く。小東
南。小轉向。福田。八野。乃

諸川水。海小。注ぎ。其末
を。遂に。阿波。との。國界。
持む。伊豫。と。當國。乃。
向。小。北。の中。小。地。海。を。
隔。て。持。能。内。小。大。小。島。
興。早。小。基。石。の。如。く

海海濱岬灣うみうみ岬みさき灣わん岬みさき交まじり土つち地ち
の形かたちを良よくし坤くん小長こながく
延のび橋はし中ちゆう短たんく西せい南なん小こ至し
る小こ隨しひ狭せくとき國こく中ちゆう山さん
乃な數かずおほく土つち佐さの界かいり結むす
東とう方ほう小こ寒かん川せん山さんある石いし槌づち

阿あま控か能の中ちゆう程ほど小こ唐たう岩いん岩いん
嶺りやう西せいの方ほう小こを世よ山さんある
山さんの北きた小こを吉きち那な川せん流ながれそ
土つち佐さの國くに小こいり濱はま邊へ東とう
瀨せ岐ぎ地ちの岬みさきと灣わんを介ま
し中ちゆう小こ川せん能の江え八はち野の川せん江え

ある西小西条と小松とい
つる二市街ありと小松乃西
の長野川越えと西小海灣
ありあるやまを今治の類
ありあつたの市ありて
自昇りて出で地勢是よ

里を繋ぐハ西北小向
をなると北中程り今
津ありと今津の東南松
山の城市に全國十四郡を
支配し玉ふ一廳ありて之を
愛媛縣とす南小道後の

温泉河も今津の西の沖
中ノ播磨形ノ鳥山ハ伊豫
乃小富士れ名も高し
海岸の弓形のこ小書置きた
る変より象の鼻小よく
似たる一ツの岬西南長く

海を圍ひ込む岬の本の肱
川も南土佐より流きて東
て北は川上乃西岸の大
海も南湾小お臨む市
街乃東小官生乃山を

乃かきふるる根より國
の中央小位きりし是より架
地勢も南轉し豊後の國
小お對し極南土佐の界ま
す岬三つ小灣三つ舟一灣
乃地ち方ち於ちまなるもちり

和島市街と知事此小海
上嶋おほく其石を敷き
りしとくちなるも風も温暖人
口も五十二万九千余國
産紙り胡麻大豆
南海道の舟ち於ち土佐を

甲國乃南端形を鎌形
身のごとく脊方西北
伊豫乃國把の脊阿波
乃必母方を都てみか南
海國中七郡大國を長
さ百里の濱はまき山陰

して且おほく東南の隅
小野根山あり阿波の家
り真山あり伊豫の界小
白髪山矢筈山也郡山津
那山羽山北は東南仁井
山のはまき柳本山を北の方

横倉山仁井の西南和久
利山西南の隅小月山あり
さうて河を数まはる阿波界
より野根名和利安蔭也
物部の水流を野根を野
根山より東より南海中

注まへる余の之水を悉く
西南さうて海小落つ物部
の分流東より牛志川を
北よりしる知の市街を狭
みとらん小内海へ流まへる
知を南小一園の管轄廳の

阿波所之を高知縣といふ。
其北境の山は阿波の吉野
乃水源なり。牛志の西三流
川伊豫より國を横截す
宇佐の港より海をへる。
伊豫の吉野乃川水は流川

とて西南の國乃極端と流
通す。國乃中間を海の水
翼の方より一里余を八
底いさ知なるをかくハ
海灣の地方を港と岬と
水陸互ふ凹凸一母の虧缺

たる形なり。東の隅よりま
さし出たる。室生戸崎の橋
乃端西南隅より足摺崎
まあるもち鑑の鋒乃尖三つ
の岬お對し。此海灣の門
とある。この知の東南十餘

里の海客も白沙青松乃
風景画くぐりて紀
乃費之が日記もて。宇田の
松原と記せし。此を
をつかるとん。國中人口四
十萬。風も殊も温暖も

て人の三子^き眞^まん^ん入^いり^つて^つた^たり^り也^也
國^{こく}產^{さん}弱^{じやく}小^{せう}鯉^り節^{せつ}海^{うみ}藻^{そう}羅^ら編^{へん}
子^{まろ}左^さ布^ふ紙^し類^{るい}冊^{さく}珠^{しゆ}櫛^し皮^ひ
緒^{まゆ}林^{ぎん}木^{もく}方^{かた}なり^{なり}ま

瓜生氏日本國書卷七終

010190534230

